

畜産環境学 (2単位)

担当者氏名 祐森誠司・池田周平・押田敏雄

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

畜産業は家畜を飼育管理することを通じて動物質タンパク質(食物・衣類等)を生産することを目的としており、家畜の飼育管理環境・条件は生命活動を営む上で適正に保たれる必要がある。また、社会的に産業として貢献する上で地域環境さらには地球環境に負荷の生じない基準の遵守が求められている。この考えを発展させ、持続型の畜産に結びつけるうえでの知見を体系的に理解するとともに、自らが学ぶ専門領域での環境への配慮、動物飼育における留意点について具体的に考えることを目的とする。講義の基本は、テーマに合わせて、フリーディスカッション方式とする。学生に於いては、本講義の内容を習得し、個々が環境負荷にどれだけ影響するかを認識すると共に、自らの生活において意識改革に努めることを目指す。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

生産科学	飼育管理条件	ふん尿処理	環境負荷物質
持続性	資源利用	土地利用	放牧強度

◆授業の進行等について

	テーマ		内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	環境と畜産の功罪	1	・ 環境という言葉のさす内容とそれに対する産業の影響について(ガイダンス)	1~5回の内容については、生産活動が環境に対して負荷となる部分の低減を中心とする。 6~10回の内容については、家畜を取り巻く環境とその制御を中心とする。 11~15回の内容については、畜産がもたらす功罪、環境への影響を国際的な視野から教授する。 毎回の講義に対する復習としてレポートを作成(A4版1枚程度)し、理解を深める。
2	環境と畜産の功罪	2	・ 家畜飼育と環境問題(土壌浸食)	
3	環境と畜産の功罪	3	・ 家畜飼育と環境問題(メタン発生)	
4	環境と畜産の功罪	4	・ 家畜飼育と環境問題(栄養的改善策)	
5	環境と畜産の功罪	5	・ 家畜飼育と環境問題(管理者の意識改革)	
6	家畜と環境	1	・ 家畜を取り巻く環境(気候的、地勢的要因)	
7	家畜と環境	2	・ 家畜を取り巻く環境(物理的、科学的要因)	
8	家畜と環境	3	・ 家畜を取り巻く環境(畜舎環境)	
9	家畜と環境	4	・ 家畜を取り巻く環境(温熱環境)	
10	家畜と環境	5	・ 家畜を取り巻く環境(管理施設による環境制御)	
11	沙漠化		・ 畜産と沙漠化	
12	富栄養化		・ 畜産と富栄養化	
13	ふん尿処理		・ 畜産とふん尿処理	
14	騒音		・ 畜産と騒音	
15	環境と法律		・ 畜産環境に関する法規制	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

必要に応じて資料を配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

新編 畜産環境保全論/押田敏雄・柿市徳英・羽賀清典/養賢堂(2012)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

レポート(100点)により評価する

◆オフィスアワー

祐森：木曜日の3、4時限目に研究室で質問等を受けつける。

池田：金曜日の1、2時限目に研究室で質問等を受けつける。

押田：随時、メールにて受けつけます。(アドレス：oshida@azabu-u.ac.jp)

◆その他受講上の注意事項

特になし。
